

令和2年度事業仕分け

「鳥の博物館の運営」について



実施日時：令和2年12月5日
15:00～15:50

鳥の博物館とは

▶ 開館の経緯

- ・手賀沼の水質汚濁
- ・山階鳥類研究所の誘致



平成2年 鳥の博物館の設置

▶ 運営方針

- ・関係機関の協力を得る
- ・多くの人に永く愛され、質の高いまちづくりに寄与する
- ・参加しやすい事業展開を図る
- ・体験学習コーナーを設ける
- ・博物館周辺をフィールドミュージアムとして活用する

⇒楽しさ、利用しやすさ、質の高い情報提供を追及

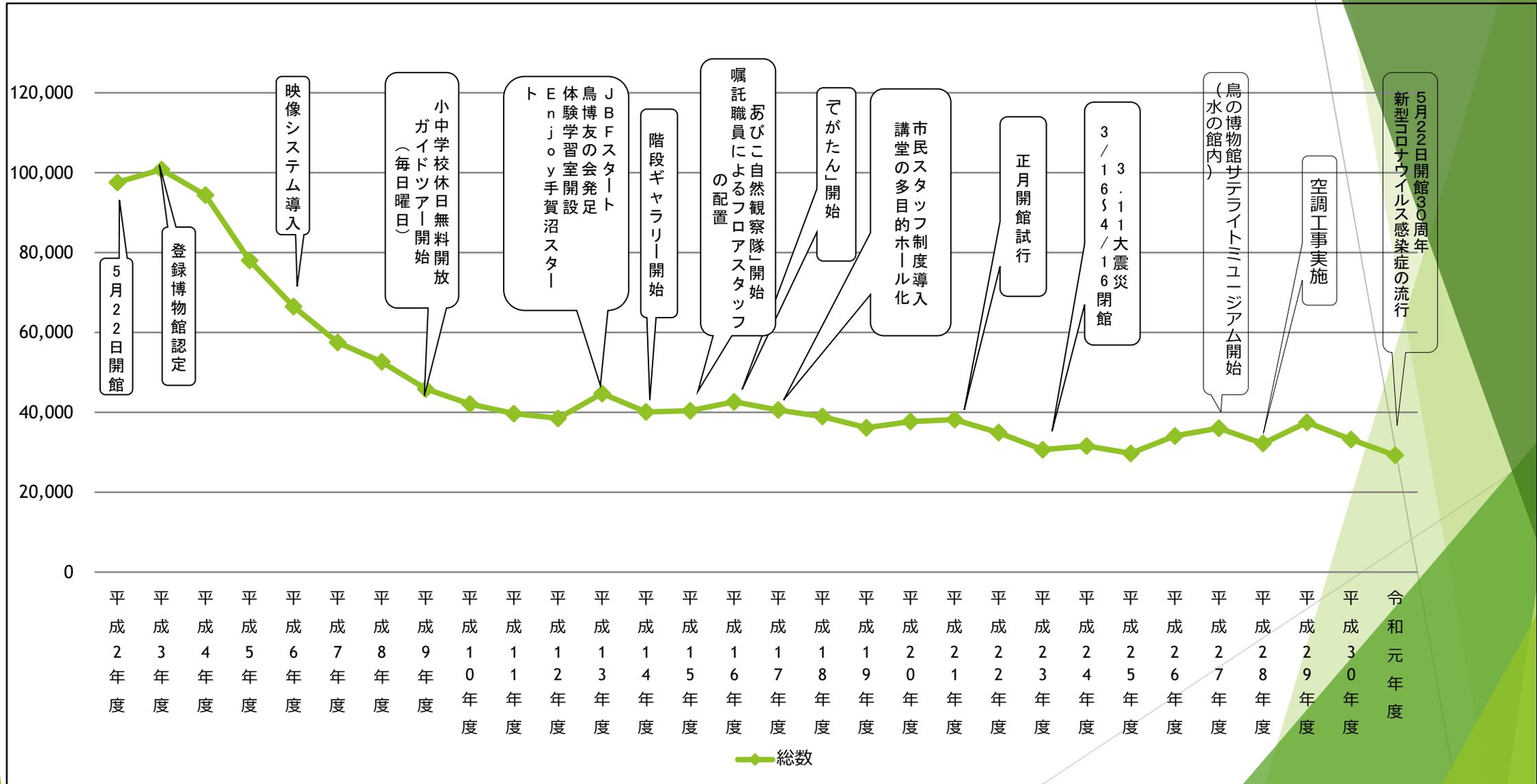
鳥の博物館の取り組み

- ▶ 山階鳥類研究所との連携
- ▶ 市民スタッフ・友の会との連携及び活動支援
- ▶ 生息調査の継続とデータ蓄積、研究
- ▶ 資料の収集と標本の作製・展示
- ▶ 教育普及活動



市民スタッフによる展示案内

鳥の博物館のあゆみと入館者数



課題

- ▶ 1. 常設展示の魅力低下
- ▶ 2. 施設の老朽化
- ▶ 3. 運営体制（人員の確保）
- ▶ 4. 来館者と入館料

課題1 常設展示の魅力低下

▶ 30年間同様の常設展示

⇒ 魅力の低下

⇒ 入館者数の減少

課題 1

現在の常設展示

1. 手賀沼の自然と鳥



課題 1

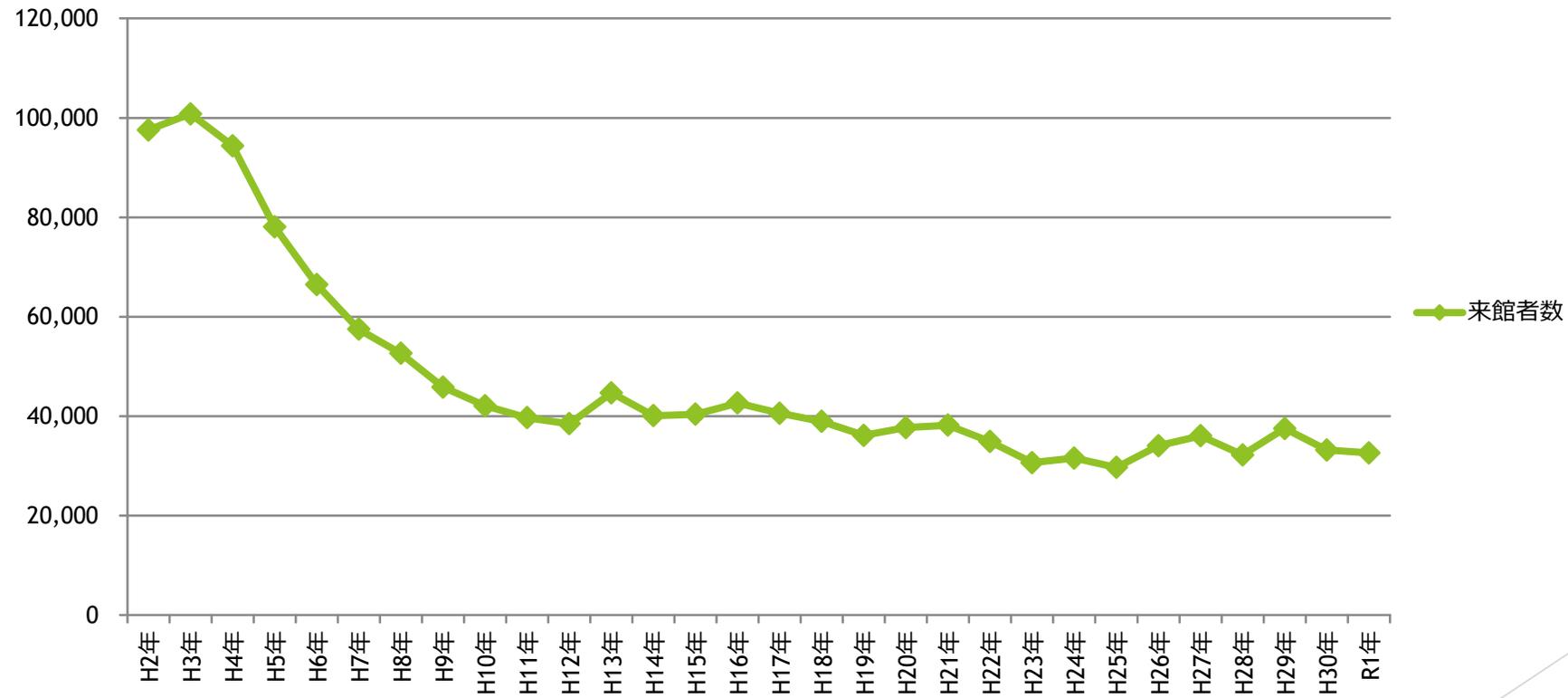
現在の常設展示

2 鳥の世界—世界の鳥—



課題 1

来館者数の推移



魅力アップするために

- ・ 展示のアップデート（恐竜など）
- ・ 幅広い世代、興味に対応した展示
- ・ 時代に合わせた展示手法の検討
（非接触型の展示物、IT活用）
- ・ 財源確保の工夫

課題2 施設の老朽化

- ▶ 開館30年の経過による不具合内容
 - ・ 自動ドアの部品供給の終了
 - ・ エレベーターの予防保全による装置交換
 - ・ 3階バルコニータイルの劣化
 - ・ バルコニーのベンチの劣化 他

課題3 運営体制（人員の確保）

- ▶ 職員配置数の減少
- ▶ 学芸員職の世代交代が出来ていない

課題4 来館者と入館料

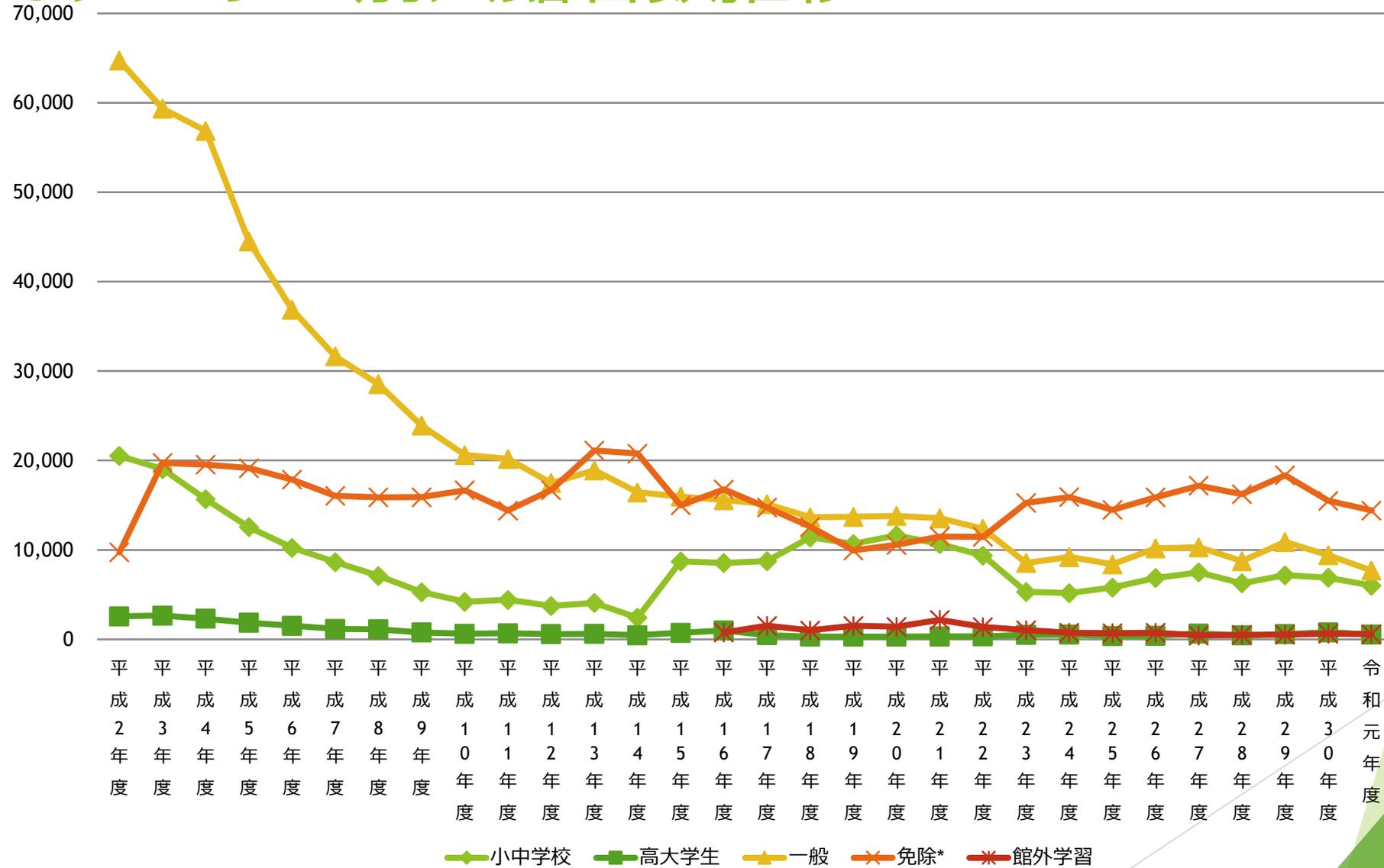
- ▶ 入館者の減少とカテゴリー別にみる変化
- ▶ ミュージアムショップの売り上げと入館料収入の推移



ミュージアムショップ

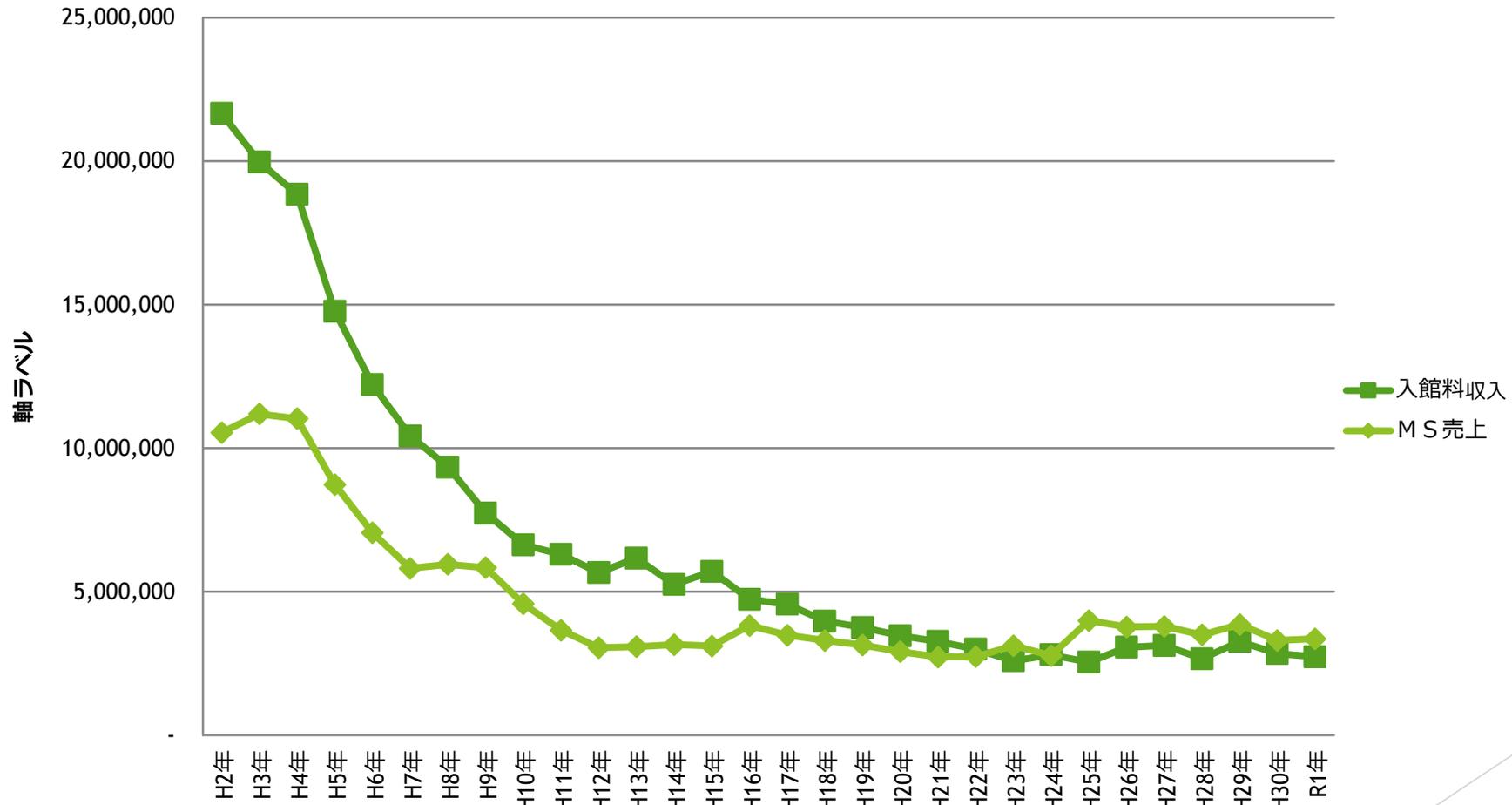
課題 4

カテゴリー別入館者数推移



課題 4

ミュージアムショップの売り上げと入館料収入の推移



解決に向けて

- ▶ 30年を経て現在に合わせた経営を
 - 1. 入館料の見直し
 - 2. ミュージアムショップの強化
教育普及のツール、来館者を増やすツール
としての位置づけ
 - 3. 情報発信の工夫・強化
 - 4. 博物館として民間委託できる範囲を再検討

以上で事業説明は終了です。

ご清聴ありがとうございました。